

お客さんが並んで  
買いに来てくれるような  
ものを作りたいんです



とよおか つぐお  
豊岡 継男さん(58歳)  
製造部工場運営管理担当部長(工場長)  
田川市夏吉

# 豊岡 継男さん

(株)フラワーベーカリー【大字夏吉】

食パン・菓子パン製造

味の探求を続けるパン職人



甘いにおいが鼻をくすぐる工房が動き始めるのは午前2時。焼き上がったパンは、午前6時過ぎには出荷されはじめる。

食パン、菓子パンの製造販売を行う(株)フラワーベーカリー。創業は昭和23年。同社のパンは、移動販売などのほか、田川、直方、飯塚、宮若など筑豊一帯の学校給食に並んでいる。

工房を仕切るのは、工場長の豊岡継男さんだ。広島にある大手製鉄所勤務から35歳で転職。「まったく畑違いですが、ものづくりの現場が好きでしたから」。仕込みから完成まで携われるパン作りの楽しさにのめりこんだ。就職後しばらくして、小学生の息子と娘が工場見学にきた。子どもたちの喜ぶ顔を見つめ、「安心しておいしく食べられるものを」という思いをいつそう強めた。

「現状に満足するな。同じものを作っている飽きられる」。創業者である先代社長から、厳しく仕事を仕込まれた。品質向上や新製品の開発に明け暮れた。

そんな空気の中で育ったベテランは、もちろん職人肌。「パンは生き物」ととらえている。湿度や気温まで計算にいれなければ、焼き上がりに違いがでるといふ。「生地

の感触を手で覚えなさい」「カマの温度は肌で感じなさい」。五感を研ぎ澄まさなければ、同じおいしさを保てないことを若手に教える。

工房では一日に一万個以上のパンをライン方式で製造している。約20人で作業を分担する。ラインと聞けば、機械生産のイメージが強いが、実はパンの成形などは手作業が多い。楽な仕事ではない。そのため去っていった若者もいる。さびしさはあるが「甘やかしては品質が落ちる。一人ひとりが味を支えているんです」と指導に妥協はない。

「おいしいものを消費者に届けたい」。その思いは工房の仲間たちに伝わっている。後進たちの技術の向上に豊岡さんは目を細める。「みんなの成長がなければ、今頃は売れなくなっていると思います」。消費者の世代が代われば、好みも変わる。その移り変わりを敏感にとらえ、売り上げを伸ばしてきていた。しかし気持ちは満たされていない。「工房にお客さんが並んで買いに来てくれるようなものを作りたいんです」。現状に満足するな。先代の教えが、今もしっかりと心に刻まれている。

筑豊の食文化を豊かにしてきたパンが、今日も職人たちの夢で膨らんでいる。

開発したソフトはシェア日本一

# 富松 暹雄さん

(株)シンク【大字伊加利】



とみまつ のぶお  
富松 暹雄さん(66歳)  
パソコンソフトウェア開発会社代表取締役  
香春町

66歳になる経営者は、今も全国を飛び回る営業マン。開発したソフトウェアは日本一のシェアを誇る。(株)シンクの富松暹雄さんだ。ソフトは、市税などの徴収業務を円滑にする滞納管理システム。39都道府県168市区町村(一部事務組合含む)に導入されている。経験に裏打ちされた実用性の高さが魅力だ。同社は、平成4年、6年、赤字再建団体脱却を目指す旧赤池町に委託され、税の徴収業務に携わった経験を持つ。徴収にはトラブルが付きもの。滞納理由や交渉経過を知らなかったり、対応にもたついたりしてもめ、さらに支払いが滞ることがあったというソフトはパソコンの画面で滞納状況や交渉経過を一目で把握できるようにする。膨大な書類を必要

とする差押えや公売手続きの書類作成機能も搭載。事務の効率化が図れることも人気の理由だ。

富松さんは大手コンピュータ会社から43歳で独立。「やるなら地元で貢献したい」と、企業誘致に熱心だった田川市を拠点に選んだ。人材は都市部に流れがち。営業回りに有利とはいえない地方での起業。しかし「決めたからにはあれこれ考えるのはやめだ」と前だけを見つめた。一時は経営危機に立たされたが、税の徴収業務の経験に活路を見出す。業界では、課税システムの開発は進んでいたが、滞納処理システムはほとんど手付かずだった。手を組んだ長崎市から、税法などの知識をたたきこんでもらい、約1年をかけてシステムを開発。その後も改良を続

け、シェア日本一をつかんだ。「地方でも人が目をつけられないことを特化してやることでチャンスをつかめる。そして繰り返し、繰り返し、自社の商品や技術を磨いていくこと。それが中小企業の進むべき道なんです」

都市部との格差に憤りを覚え、疲弊に苦しむ地方を憂える。だからこそ、ここでやり遂げるといふ意地をもって田川で経営を続けてきた。だから地元若者にも目を向ける。「田川から頑張るといふ意地をもって働いてほしい」と、毎年地元高校生の採用を続けている。「はじめから高い専門知識を持っていなくてもいい。商品も人材も磨けば必ず輝くんです」

貫いてきた意地は、田川の人材を思う温かさでもある。

## 商品も人材も 磨けば必ず輝くんです